

# 金融機関による中小企業の財務評価方法に関する提言

作新学院大学大学院生 安西克巳

歴史的に見て日本経済の発展に中小企業が果たしてきた役割は大きく、今後についても特に地域経済の発展には、地域資源の有効活用や雇用創出等の面でその潜在的なパワーの活用は欠かせない。現在、中小企業は、人口の減少に伴う内需の低下、デフレの長期化等により経営環境は厳しさを増している。このような環境下にある中小企業が、事業を継続し、成長・発展するためには、安定した資金繰りの維持が重要になり、金融機関には中小企業に対する的確な実態評価を通して、適切な金融支援が求められるとともに、経営力が低下している中小企業に対して、コンサルティング機能の発揮が期待されている。

金融機関が中小企業の実態を評価する際に用いる方法は、大別して定量的評価と定性的評価に分類される。定量的評価は、主に財務データを対象に、当該企業の財務状況を過去に債務不履行に陥った企業と比較することなどにより評価を行う。一方、定性的評価は、財務諸表に計上されない無形の経営資源、例えば経営者の資質、技術力、販売力などを、観察や対話を通して評価するものである。金融機関が中小企業を定量的・定性的両面からの確に評価することが重要であるが、本稿は、定量的評価、特に財務評価に焦点を当てたものである。

金融機関が中小企業に対するコンサルティング機能を効果的に発揮するには、その第一歩として、事業の持続可能性や経営課題などについて、中小企業と意見の一致を図ることが必要になる。しかし、現在、金融機関が用いている多くの財務評価方法は、課題を抱えており、特に検討が必要な点として、①従来の財務評価方法については、その評価の結果を理解する上で、専門的な知識や能力を求める場合が多いこと、②スコアリングモデルに基づいた評価方法については、当該企業の経営課題が何であり、今後どのような経営改善を必要とするのか直接的に示さないこと、そして、③前述した①②の両方法とも、中小企業における財務や会計の整備事情を踏まえた上で、応用性や実用性を更に高めていくことが課題となっている。

本章は、前述した3点の課題について検討し、当該企業の倒産リスクを経営改善策と対応づけて財務評価を行える方法を提案する。第1に、従来までに提案されている財務評価方法とその課題について整理する。第2に、中小企業における財務や会計の整備事情について調査すると共に、財務諸表に計上される勘定科目や一般的な経営指標が、倒産リスクを単独でどの程度まで評価できるか調査する。第3に、これらの調査結果に基づいて、実質自己資本の概念について特に着目すると共に、中小企業の経営状況を可視化する財務評価方法を提案する。最後に、提案方法の特徴と今後の展望について述べる。